

## 【平成20年2月期 決算説明会 報告骨子】

席上配布資料『平成20年2月期 決算説明会資料』とともにご覧ください。

### 1. 平成20年2月期の総括（P1）

- ・売上高 … 131億4百万円(前期比+13.6%)
- ・営業利益 … 9億31百万円(前期比+51.2%)
- ・経常利益 … 10億21百万円(前期比+59.4%)

### 2. 平成20年2月期 損益計算書（P2）

- ・売上高 … 131億4百万円(前期比+13.6%)  
→フロイント産業の増収(前期比+17.1%)と米国子会社2社の増収(前期比+5.2%)で創業以来最高の売上高を記録。
- ・営業利益 … 9億31百万円(前期比+51.2%)  
→人件費の負担増(業績連動型賃金体系を指向)や本社家賃の費用増加を吸収。
- ・経常利益 … 10億21百万円(前期比+59.4%)  
→営業外収益:ロイヤリティ収入の増加、事業保険の解約益金、投資事業組合に対する出資から生じた持分利益など前期比50百万円の増加。  
営業外費用:金融関連費用の削減など前期比14百万円の減少。
- ・税引前当期利益…11億72百万円(前期比+84.6%)  
→VPS社株式売却益1億65百万円など
- ・当期純利益… 9億43百万円(前期比+133.6%)  
→海外子会社の繰延税金資産に対する評価性引当の取り崩しなど法人税等調整額2億40百万円

### 3. 平成20年2月期 貸借対照表（P3）

#### (1) 流動資産・負債の増加

- ・機械装置の販売代金は、契約時・中間時・検収時に順次回収し、「前受金」が増加
- ・機械装置の受注増加に伴い仕掛品・仕入債務が増加し、「たな卸資産」が増加

#### (2) 固定資産の減少

- ・事業活動への寄与が期待出来ない資産(住宅用不動産など)は機をみて処分
- ・2006年に全面更改した社内情報システムのソフトウェア償却を通年適用開始
- ・1997年ベクター社買収時の“のれん”償却を終了

上記(1)(2)により、総資産は127億円(前期末比+21億62百万円)

#### (3) 各種指標

- ・自己資本比率 … 57.2%(前期末比▲4.3ポイント)
- ・自己資本当期利益率(ROE)…13.7%(前期末比+7.4ポイント)

### 4. 売上高(部門別売上構成)の推移（P4）

- ・機械部門 … 86億96百万円(前期比+21.9%)、売上構成比は66.4%
- ・化成品部門… 44億8百万円(前期比+0.1%)、売上構成比は33.6%

## 5. 機械部門の受注高・期末受注残高の推移（P5）

### （1）当社

期初受注残高 … 28 億 69 百万円

通期受注高 … 61 億 3 百万円

期末受注残高 … 35 億 30 百万円

⇒過去最高の受注高、期末受注残高の記録を更新

### （2）ベクター社

（受注高・受注残高は製品のみ。部品は在庫から出荷）

期初受注残高 … 1,163 万ドル

通期受注高 … 2,489 万ドル

期末受注残高 … 1,197 万ドル

## 6. 第3次中期経営計画（平成18年2月期～平成20年2月期）の総括（P6）

『国際化への果敢なチャレンジ』を基本方針に掲げ、内外のユーザーニーズを捉えた研究開発型企业として、社会的存在価値の向上に取り組む

### （1）最終年度計数目標の達成状況

売上高はクリアー、営業利益は未達、当期純利益はクリアー（特殊要因を除くと、未達）

### （2）収益力の向上

グループ全体では“一人当たり営業利益”は期間を通じて約8割アップ。

### （3）経営体質強化（事業活動への寄与が期待出来ない資産は処分）

外部賃貸の住宅用不動産は順次処分、事業保険や投信運用資産なども機をみて処分  
⇒総額3億円強を換金、資産の効率性を高め財務体質を強化。

## 7. 平成21年2月期の業績予想（P7）

・売上高 … 118 億円（前期比▲10.0%）

・営業利益 … 7 億円（前期比▲24.8%）

・経常利益 … 7 億円（前期比▲31.4%）

・当期純利益… 4 億円（前期比▲57.6%）

### 《業績予想についての補足説明》

①引渡基準を採用している機械装置類は、計画どおり製造しても、工場の建屋竣工が遅れれば、据え付け、試運転が遅れ、物件の引渡し時期が不透明であり、期初時点ではある程度、保守的に見通さざるを得ない。

②VPS社の業績が反映されなくなる（約4億円の減収）。

③為替は円高予想（通期平均為替レートは1ドル＝100円を予想）

なお、高付加価値製品の販売と、徹底した原価低減策と経費節減により収益力の向上を図り、努力目標として営業利益9億円の前期並み水準を追求。

## 8. セグメント別事業計画（P8）

<資料のとおり、説明省略>

## 9. 売上高・営業利益の推移（P9）

<資料のとおり、説明省略>

#### 10. 設備投資額・研究開発費の推移（P10）

- (1) 設備投資額：2億40百万円を計画（平成21年2月期）  
新製品に関わる研究開発、並びに生産体制作りと来期から適用開始となる内部統制報告制度を睨んだシステムの改善など。
- (2) 研究開発費：3億円を計画（同上）  
研究開発への取り組みを強化しており漸増予想。

#### 11. 新（第4次）中期経営計画（平成21年2月期～平成23年2月期）（P11）

『創る喜び、飛躍への邁進』をスローガンに掲げ、それぞれの立場で“創ること”の手応えを感じながら、新境地を切り拓いていく。

急速な業容拡大を望むよりも、収益性の高い企業集団を目指す。

最終年度（平成23年2月期）計数目標：

- ・売上高 … 130億円
- ・営業利益 … 13億円（連結営業利益率10%）
- ・当期純利益… 6億円

以上